

かだる

シニアの社会参加情報誌

K A D A R U

2012.12月

冬号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

「声かけあっぺし！」廃校を活用した支え合い活動 上安家支え合いの会（岩泉町）

かみあつか
上安家支え合いの会（中川原榮子 会長、会員70名）は、高齢者の生活意欲の高揚を図ることと高齢者の孤立防止を目的として、平成24年4月1日、岩泉町上安家地区で結成しました。地域独自によりあいの場を作り、60歳以上の住民を対象に、毎月、様々な行事を企画。参加することで、住民相互の安否確認に繋げようとしています。

同地区は、高齢化率が54.7%で、岩泉町の山間部に位置し、住宅は点在していることから、このままでは高齢者の孤立化が避けられないという危機感が同会を発足するきっかけとなりました。会を発足後すぐに各地域で「よりあいの会」の説明会を実施し、今年の6月から開始しました。「よりあいの会」では、高齢者や

地域の住民が生産した農作物や山菜などを活用した食事の提供、季節の行事、ゲーム、体操などで交流を深めるほか、健康教室、リハビリ教室等も行っています。

1回あたりの参加者は20～30名。会場は、廃校（旧大平小中学校）を活用しています。参加者からは「一人でいると、なかなか食事もつくりにくいし、大声で笑うこともない」という声があります。行事の様子は、会報「声かけあっ



ゲームや軽い運動を楽しむ参加者

ぺし」（声をかけあおう）を作成し各世帯に回覧や配布をして、より多くの参加を呼びかけています。「よりあいの会」は、同じ場所で実施するだけでなく、場所を変えて公民館などでも行います。また、同地区は山間部に位置し、交通機関にも恵まれていないため参加者同士で送迎を行っています。

回数を重ねていく中で、地域の若い住民も参加することもあり「若い人がいると楽しく、元気がでるね」という声も聞かれます。

事務局の三好悦子さんは、「地区が広いため、会場を変えながら、できるだけ多くの高齢者が参加しやすいように配慮している。このような活動が地域で支え合うきっかけとなってほしい」と話しています。

（この事業の一部に、（公財）いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



保健師による血圧測定を行っている様子

一関市で、シニアが元気！地域も元気！「第二の人生応援セミナー」を開催

平成24年10月9日（火）、岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、一関市等との共催で、第二の人生応援セミナー「シニアが元気！地域も元気！」を開催しました。当日、一関文化センターの会場には、市内外から43名が参加しました。

講師は、仙台市でシニアの居場所・仲間づくりを目的に創設した「シニア元気笑学校」校長の渡辺源治さん。「目標をもって、あきらめず、これからが人生本番！」と題した講演でした。

講演内容は、定年退職後の第二の人生の生き方について。「世の中の良いところを見つける知恵」、「お金を使う哲学」、「他人には『差し上げる心』を持って接する」、「自分にとっての楽しみとは何かを考えてみる」、「元気な時にこそ老前整理をしておく」など、幅広いテーマから、ユーモアを交えた分かりやすいお話しがありました。最後は、生きがいの3つのキーワードを挙げ、「やることがあるーやることがなければ惨めな毎日になるー」、「行くところがあるー行くところがないと心身とも弱っていくー」、「会う人がいるー会う人がなければ寂しい人生になるー」と締めくくられました。

講演の後は、高齢者社会貢献活動サポートセンターから「仲間づくりと団体運営、県内の事例」として高齢者を取り巻く状況、高齢者の社会参加の状況、県内の活動団体の事例などについて説明。その後、奥州市で地域の歴史・文化の伝承活動をしている紙芝居サークル「若葉会」が活動内容を紹介し、実話を元にした紙芝居「村を救った娘の話」を上演しました。

参加者からは、「とても分かりやすい講演など、楽しいセミナーだった」などの声がありました。



高齢者の生きがいについて講演する渡辺源治氏

平成24年度「エイジレス・ライフ実践者及び社会参加事例」表彰

年齢にとらわれず自由に生き生きとした生活を実践する平成24年度の内閣府の「エイジレス・ライフ実践者」に久慈市の木藤古徳一郎さん（81歳）、地域で社会参加活動を積極的に行っているグループの「社会参加活動事例」に、矢巾町のグランマシニア教室が選ばれました。

木藤古さんは、山村文化の継承に取り組む「バッテリー村」を昭和60年に開村。同村内に、集落の住民の協力のもと、かやぶき屋根の民家を再生した



木藤古徳一郎さん

宿泊所、炭焼き窯、民芸品の工房をつくりました。毎年、首都圏から若者を招き、自炊生活、薪風呂、染物などの体験、自然散策などを行い、自然と共に生きる大切さや高齢者が培った知識、古き良き文化の継承を行っています。



グランマシニア教室のみなさん

グランマシニア教室は平成18年に結成（藤原幸会長）。民家を開放し、託児所として親子の遊び場を提供し、絵本の読み聞かせ、誕生会、ハンドベル演奏会、季節の催し物などの世代間交流活動を行っています。高齢者と核家族親子の交流が、地域の支え合い、高齢者の生きがいへとつながっています。昨年から沿岸被災地の子ども達の交流事業も行い、復興支援活動にも力を入れています。

シニア劇団ぎんが（北上市、西和賀町）

シニア劇団ぎんがは、北上市、西和賀町、秋田県横手市の高齢者が中心となって、県内で公演活動を行っている劇団です。県境を越えたこの高齢者の生きがい対策事業は、各社会福祉協議会の後押しで平成11年から開始され、これまでの参加者の累計は150人超。劇団員は毎年入れ替わり、劇団名も毎年新しくなります。今年的人数は12名で、平均年齢は70.4歳。最高齢は84歳です。大半の高齢者は演劇経験がありませんが、長い人生経験から溢れ出る演技は円熟味があり、さらには、素人らしい新鮮な演技が、観客に感動を与えることもあります。

「何よりも、お客さんが笑ったり、拍手してくれるのが一番嬉しい」と劇団員のみなさんは口を揃えています。

西和賀町社会福祉協議会の高橋純一事務局長は、「人に見られるということで刺激になり、みなさん生き生きとして

「舞台で輝く第二の人生」



北上市さくらホールで公演するシニア劇団ぎんが

います。人前で表現することがこの上ない喜びとなって、また来年もやりたいという声が多く聞かれます」と語っています。

（この事業は、岩手県文化振興基金からの助成を受けて実施しています。）

小友丁亥会ふれあいクラブ（陸前高田市）

おともひのといかい

小友丁亥会ふれあいクラブ（吉田幹夫代表、会員21名）は、昭和38年の小友中学校の卒業生が集まって、平成24年に結成。陸前高田市の被災農地にひまわり等の花や野菜を植え、美しい景観をつくる活動を通じて、地域住民と共に交流を深めながら復興への意欲を高めて



ひまわり畑の前に集まった会員のみなさん

「景観づくりを通じたふれあい活動」

いくことを目的に活動しています。同クラブは、震災により壊滅的な被害を受け一変した郷土に元気をもたらしたいという同級生の有志の思いに賛同者が集まり、結成に繋がりました。農作業には会員のほか、ボランティアからの応援も受け、被災者を含めた地域住民も加わって参加。地域住民が取り組むことで地域全体が復興への意欲を高めようとしています。そのほか、家庭に眠っている古着を有効活用するためのリフォーム講習会、東日本大震災の教訓を伝えていくため震災に関係した原稿を集め、記録集発刊の準備も進めています。

同会では、復興への希望を失わないためにも、今後この活動を続けていくこととしています。

（この事業の一部に、（公財）いきいき岩手支援財団の「近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

書籍紹介

極北

マーセル・セロー著（村上春樹訳） 中央公論新社

物語の舞台は、極寒の入植地。ある出来事によって秩序ある近代世界が崩れ、そこでは人々は、家族や大切なものを失う。しかし、人々は文明の明かりが消え、世界が破壊された後でも必死に生きようとする。「我々がいったん心に決めたとき、我々にできないことがあるだろうか」。そう心に決めた主人公は、「失われた世界」の中でも希望

を見いだそうと、文明に頼らず知恵と生命力で力強く生き抜く。

著者は、チェルノブイリの立ち入り禁止区域に残り原始的な暮らしをしている女性に出会ったことがきっかけでこの小説を書いたという。

3.11 以前に書きあげられたこの小説は、今の日本との様々な接点を示唆している。



花巻市シニア大学（学長：市生涯学習課長）は、花巻市内の60歳以上の市民を対象に生涯学習を通じた高齢期の生きがい、仲間づくりの支援を行っています。学習の場となっている生涯学習都市会館（愛称：まなび学園）は、旧県立高校校舎を活用。パソコンルーム、AVルーム、体育館等も備え、市民の学習拠点として年間16万人の市民に利用されています。

同大学の教育課程は、入学後、年次課程（2年間）に進み、大学院（6年間）、修学院（4年間）までとなります（学費不要。自治会費として8千円が必要）。進学は本人の希望によりますが、12年間の就学期間となっています。各課程は9クラス編成で、1クラス30～40人が在籍し、各クラスを職員6人で担任。授業は、各課程、4月から毎月2回ほど行っています。年次課程の講義内容は、一般教養、趣味、健康管理、レクリエーション、スポーツなど。大学院への進学前には希望の学部を選択。大学院には、「ポラン学部」という賢治について専門に学ぶコースも設けられています。最終課程となる修学院は、実技中心の授業や自主性を重んじた選択授業となるなど、よりレベルアップした内容となっています。その他、年6回ほど行う全体授業（行事）は、大学所有の「ふれあい農場」（サツマイモ栽培）での農場開きや収穫祭、運動



芸術学部・写真撮影講座の受講生のみなさん

会、学園祭、修学旅行など季節に合わせた内容となっています。自治会では、昨年からは被災者支援も開始。募金活動や市内の被災者との交流会、被災地への移動研修では花鉢の寄贈など、活発な活動を行っています。

同大学は、大学運営の最高機関の運営委員会に自治会役員が参画するなど、自治会の自主性に重点を置いて運営されています。また、毎年度の運営方針や事業計画、カリキュラム等の決定には、全学生からの評価シートによる評価とクラス反省会の意見を反映させるほか、全体授業は、クラス代表委員によって企画・実施されています。なお、修了者の中で学習意欲のある人を対象に、同窓学院が結成されています。

担任の佐々木昭・社会教育指導員は、「このシニア大学の授業内容は、いわゆる大学に匹敵すると言える。学生自身の自主性に重点を置いて運営されているため、積極的に行動するシニア層が育っている。今後、地域での活躍が大いに期待できる」と話しています。

花巻市シニア大学の概要

花巻市シニア大学の概要						
課 程	ク ラ ス	修業年限	定 員	講 座 内 容	学習回数等	経 費
年 次 課 程	1 年次生	2 年間	各クラス 4 0 名	・一般教養	・クラス学習	・自治会費として 8,000 円 / 年間 ・前期後期で分納
	2 年次生			・趣味 …原則月 1 回		
大 学 院 課 程	学芸学部	6 年間		・健康管理	・時間	
	芸術学部			…午前午後		
	保体学部			各 2 時間		
	ポラン学部					
修 学 院 課 程	A	4 年間		・軽スポーツ	・上記以外に	
	B		・ボランティア	全体学習あり		
	C		・移動研修			

平成25年度「ご近所支え合い活動助成金」申請受付開始のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、平成25年度「ご近所支え合い活動助成金」の申請受付を、平成24年12月17日（月）から開始いたします。第1回目の締切は平成25年2月28日（木）必着です。

申請についてのご相談、お問い合わせは、岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターまでご連絡ください。

※「ご近所支え合い活動助成金」とは、県民が共に支え合う活動を支援し、安心して暮らし続けることができる地域社会を実現するため、県民の地域貢献活動等を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、「高齢者が主体となつて行う活動」または、「高齢者等をサービスの対象とした支え合い活動」を対象としています。

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成24年12月10日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>